

市長コラム

～今こそ地域連帯～

Vol.29



夏本番を間近に控え、これからは大雨や台風に警戒が必要な時期を迎えます。まだ記憶に新しい昨年8月の大雨災害のように、当地域でも災害はいつ何時やってくるかわかりません。市民の皆さんには、日頃から災害への備えや地域での防災対策を心掛けていただきますようお願いいたします。

さて、本コラムにおいて「市民協働」により取り組むべき課題として、これまで「防災対策」「ごみ対策」について述べていただきました。今回は「地域共生社会」について考えたいと思います。

★高齢者が生き生きと輝く「地域共生社会」の実現

人口減少や高齢化が急速に進み、社会の担い手は確実に減っていく中、健全な地域社会を維持していくためには、元気な高齢者は積極的に社会参加してもらわなければならない時代が来ていると思います。

高齢者が社会参加することは、地域社会の活力につながることはもちろんですが、豊富な知識と経験を社会に還元していただくという面でも大きな効果があります。

市では、今年度より65歳以上の元気な高齢者が担い手となる「五所川原市アクティブシニアポイント事業」を実施します(3ページ掲載)。ポイントの対象となる活動は、介護施設等でのサポートや市が主催する介護予防教室での補助等ですが、さらに多様なメニューを検討してまいります。

また、五所川原市社会福祉協議会で設置している「ボランティア・市民活動センター」では、多様な個人・団体がそれぞれの活動を通じて地域社会に貢献していますが、今後は、高齢者の社会参加のさらなる受け皿づくりを民間法人等と連携しながら進めていくとともに、新たな活躍の場や機会を積極的に作っていききたいと思います。

高齢者の新しい社会参加のあり方として、介護人材が不足する中、元気な高齢者が地域の高齢者を支援するという役割が考えられます。同じ高齢者目線で支援することで互助機能が図られ、まさに「地域共生社会」に資するものだと思います。ほかにも、例えば「地域移行した部活動の見守りや送迎」「通学路の見守り」「共稼ぎ世帯の子育て支援」、また、専門的な知識や技能をお持ちの方が社会に還元できるような仕組みづくりなどさまざまな可能性があり、さらには、活動を通じて自己肯定感を育み、生きがいを持

つことで「健康長寿社会」につながることを期待されます。

制度や行政サービス、社会資源をどれだけ充実させても限界があり、また、孤立や疎外感による生きがいの喪失、不安というものは解消できません。

そういうところでどう手を差し伸べるかが重要な課題であると思います。そのため、多様な主体が共に支え合い、助け合う「地域共生社会」の構築が極めて重要ですので、地域社会全体で取り組んでいきたいと思っています。

「地域共生社会」とは…

制度や分野ごとの「縦割り」や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会。

★子育てお母さん方との「お茶会」に参加しました！

5月17日、子育てステーションすてっぷによる「お茶会」にて、子育て世代のお母さん方とのきたんのない意見交換を行いました。「不妊治療の助成を検討してほしい」「小さい子どもでも遊べる公園を整備してほしい」「室内の遊び場がほしい」など、さまざまなご意見ご要望をいただきました。

このお茶会にはこれまで4回参加させていただきましたが、毎回、お母さん方から生の声を聞くことができ、大変貴重な時間であると感じています。これからも市民の皆さんからのご意見は、どんな小さなことでも耳を傾け、市民目線の市政運営につなげてまいりたいと考えています。

★松島団地児童公園を整備します！

今年の春にリニューアルオープンした「菊ヶ丘運動公園遊具エリア」が多くの市民の方々にご利用いただいております。一方で、小さいお子さんをお持ちのお母さんからは「子どもたちが集中しすぎて、小さい子どもは安心して遊べない」という声も聞こえています。

現在「松島団地児童公園」の整備を進めており、今まで無かった専用駐車場を整備するほか、小さいお子さんでも安心して遊べる遊具を新設します。今年の秋完成予定ですので、お近くの方々に限らず、多くの市民の皆さんに楽しんでいただけるよう整備を進めていきたいと思っています。



「地域共生社会をテーマとした今年度の『市民討議会』の様子



「子育てステーション『すてっぷ』お茶会しゃべっ茶Oh!」の様子